



木 木 木

千葉県 TEACCH プログラム研究会

2023 年 12 月 2 日(土) 第 124 号

「森」字・佐々木正美
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県 TEACCH プログラム研究会広報部

ホームページ：<http://www.5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS 内 TEL :043-227-8557



第4回 連続セミナー

演題：「構造化を用いた家庭での取り組み

— ASD・重度知的障害 発達と療育の記録 —

講師：國則 由美子氏 保護者

今回は、ASDと重度の知的障害を併せもつ息子さんの保護者である國則由美子氏から、これまでの子育ての御経験から構造化とコミュニケーションの重要性をお話いただきました。現在19歳の息子さんへの支援は、日常生活面、学習面、職場、地域での生活など様々な場面で継続中です。ASDの方への支援に関わっている私たちにとってトータルで支援を考えることの大切さや現場ですぐに生かせる支援のヒントがたくさんつまったセミナーとなりました。

○家庭での療育について

出産から幼児期にかけて、動画を含め詳しく成育歴を説明いただきました。医者から言われた言葉など想像を超える状況にもかかわらず、冷静に受け止め、現状を把握する姿に尊敬の念を抱きました。幼児期には感覚過敏によるパニックや予測不能の行動など多く見られたとのこと。2歳8か月から療育をはじめ、現在は就労継続B型事業所で働いている様子を伺いました。療育では、12個のキーワード(手指の操作性、日常生活動作、生活技能、運動、スケジュール、言葉、休憩、作業、コミュニケーション、ワークシステム、学習、余暇、)を基にした構造化とコミュニケーションについてを中心にお話いただきました。

○コミュニケーションの第一歩は選ぶこと

コミュニケーションをするには、まず土台作りが重要とのこと、本人の好きな物の2択から自ら選び取る(意思決定)ことから始められました。選択するには、論理的思考が大切で、2択を比較して対象物は「どんな情報があるのか」を吟味しなければなりません。知識や情報を整理したり、経験を積み重ねることにより経験を優先させたりすることで選ぶことが可能になります。本人の学習や経験が選択の決定基準に大きく作用することを認識しました。

○思考を言語化し、アウトプットできること

自分の意思を伝えて配慮を申し出ることが、感覚過敏である本人にとって最優先だと話されました。不安やストレスの軽減が精神を安定させるためには必要なことです。思考を言語化できる手段として、話し言葉やPECS、記述などの方法を取り入れられました。自ら、苦手な音から離れられるような配慮を得ることがスキルとして重要なことでした。発声の練習や文字の読み書き、PECSのやりとりなど当時の様子を動画で説明いただきました。中でも向かい合って歌を歌い合うことは発声のみならず、お互いが向き合うことにより感情について学ぶことにつながったとのこと。また、本人にとって必要な形容詞(大きい、小さい、熱い、冷たい、ぬるい、長い、短い、濃い、薄い、赤い、青い)を教えることで本人が本当に欲しいものをより正確に伝えられることになったとのこと。

スケジュールと相談

記憶の保持と抽出が苦手なので、情報を絞って伝えることに重点をおいてスケジュールを作成されました。形態は、注視することが苦手で、イラストよりも文字を読むことの方がモチベーションを高くもてたことから、文字が有効とのことでした。また、複数の情報を整理できないことやどこに注目したらよいかわからなかったことから活動ごとの区切りを赤く囲ったり、始まりと終わりがわかるように変更したりされました。時間の間隔は学習によって獲得で

きるので、スケジュールも時計を活用し、スモールステップで取り組まれています。成長やその時の本人の状況によりスケジュールを再構造化することが大切とのこと。スケジュールで示しても変更は生じることなので、変更を伝え交渉ができるようにされました。自分の気持ち「これは嫌だ」「今はやりたくない」を伝え、一方的に受け入れるのではなく、本人からの要望も一つ提案できるよう進められました。お互いの意見を受け入れる経験を積むことでプラスのイメージがもてる「相談」へとつなげられました。要求がとおらない時も、「仕方ない、残念、また今度」などの言葉も教え、次に切り替えられるようにされました。

生活スタイルを作ることの重要性(社会で生きていけるように)

一日のバランスを考える上で休憩のスキルは大切であり、スケジュールの中で適切な休憩時間、リラックスや好きなことを行い、不安やストレスを軽減できるようにされました。長く設定しすぎると次の活動の切り替えができなくなる場合があるので注意が必要とのこと。また、自分で身の回りのことができるということは、精神の安定につながることから洗濯や寝具の準備片付けなどもスモールステップで手順書を準備し取り組まれています。市販品はモデルチェンジや廃番になることもあり、「これでなくてはだめ」とならないリスク回避もあらかじめ工夫されています(洗剤の入れ物を別にする、AとBに設定する等)。そのほか、感覚過敏を調整する(拒否や回避)ことも大切なので生活の場面で教えるようにされています。また、生活の中で朝と寝る支度をルーティン化することで、変化に富んだ一日でも安定して過ごされているとのこと。

お手伝いで報酬を得ることを教えるために、トークンエコノミーを活用されました。報酬のために行っているという動機付けを忘れないために、最初は5つのお手伝いをしたらすぐに欲しいものがもらえるシステムにされました。徐々に1週間、1か月と伸ばしていき、最終的には月末に報酬がもらえるという習慣にされました。アイスクリーム、ゲームセンターなど本人のモチベーションにつながっているとのこと。報酬で好きな活動を楽しむシステムがわかることで、給料やお小遣いを有効に使い、集中して働くことができているそうです。

構造化とコミュニケーションは大きな柱、動機付けとモチベーションを根拠として支援を続けられています。本人に対してフィッティングしているかが重要とのこと。概念を教えるのではなく、望ましい行動を教えることや様々な場面で般化できること、さらには自分自身の行動を振り返られることが今後の目標であると話されました。

令和5年度千葉県 TEACCH プログラム研究会第5回連続セミナーについて

日 時：令和5年12月2日(土) 14:00～16:30(13:30受付)

内 容：「障害のある人のきょうだい支援の必要性とその支援」(仮)

講 師：沼尾 あかね 氏 (きょうだい会SHAMS代表)

会 場：千葉県教育会館203会議室(予定)

※オンデマンド動画配信 配信期間：12月8日(金)～12月24日(日)

令和5年度千葉県 TEACCH プログラム研究会第6回連続セミナーについて

日 時：令和6年2月17日(土) 14:00～16:30(13:30受付)

内 容：家庭・学校・施設の実践報告(仮)

講 師：保護者、教員、施設職員(予定)

会 場：千葉県教育会館303会議室(予定)

※オンデマンド動画配信 配信期間：2月23日(金)～3月10日(日)

【編集後記】

先日、長年にわたり本研究会のスーパーバイザーを務められた安倍陽子先生のセミナーに参加しました。ASDの方への支援をもっと広めたいという強い熱意から「リアルな研修をしていく必要がある」とおっしゃられました。支援者は構造化のアイデアがたくさん出せるように創造力が必要なこと、また、細かなアセスメントによる構造化をしていくことの大切さを学びました。構造化をそのままにしないで再構造化を続けることがASDの方への理解とよりよい支援につながるということを確認しました。安倍先生から「千葉県TEACCHプログラム研究会を陰ながら支えます」と嬉しいお言葉もいただきました。(吉村)